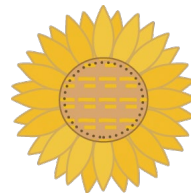




ひまわり



脳卒中後遺症に対するボツリヌス療法

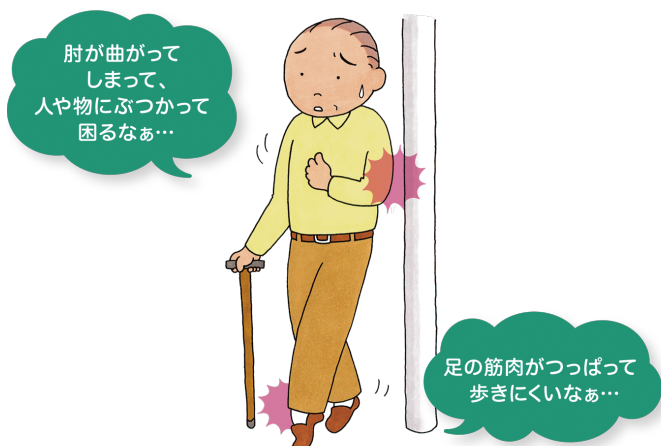


茨城県立医療大学付属病院
脳神経リハビリテーショングループ
医師 松下 明

けいしゆく 手足の痙縮（筋肉の「つっぱり」）

脳卒中や脊髄損傷などによって神経が障害されると、手足の動きが悪くなる運動麻痺になることがあります。この麻痺した手足の筋肉は、思うように力が入らないだけでなく、筋肉が緊張しすぎてしまい、余計に動きにくくなったり、勝手に動いてしまったりすることがあります。この様な病気の一つに痙縮があります。

痙縮により筋肉が「つっぱって」しまうと、肘や肩の関節が伸びず着替えがしにくい、指が握り込まれて手が洗いにくい、足首や足のゆびが曲がってしまって歩きにくいなどの症状がみられます。この様な症状に対して、日々のストレッチや運動などの他に、ボツリヌス治療を行うと改善する場合があります。



手足の痙縮とボツリヌス治療

ボツリヌス治療は、この筋肉の「つっぱり」を和らげるための治療です。ボツリヌス治療は様々な病気に対して行われることがありますが、今回は脳卒中や脊髄損傷によって生じる「上肢痙縮」「下肢痙縮」に対するボツリヌス治療について説明します。

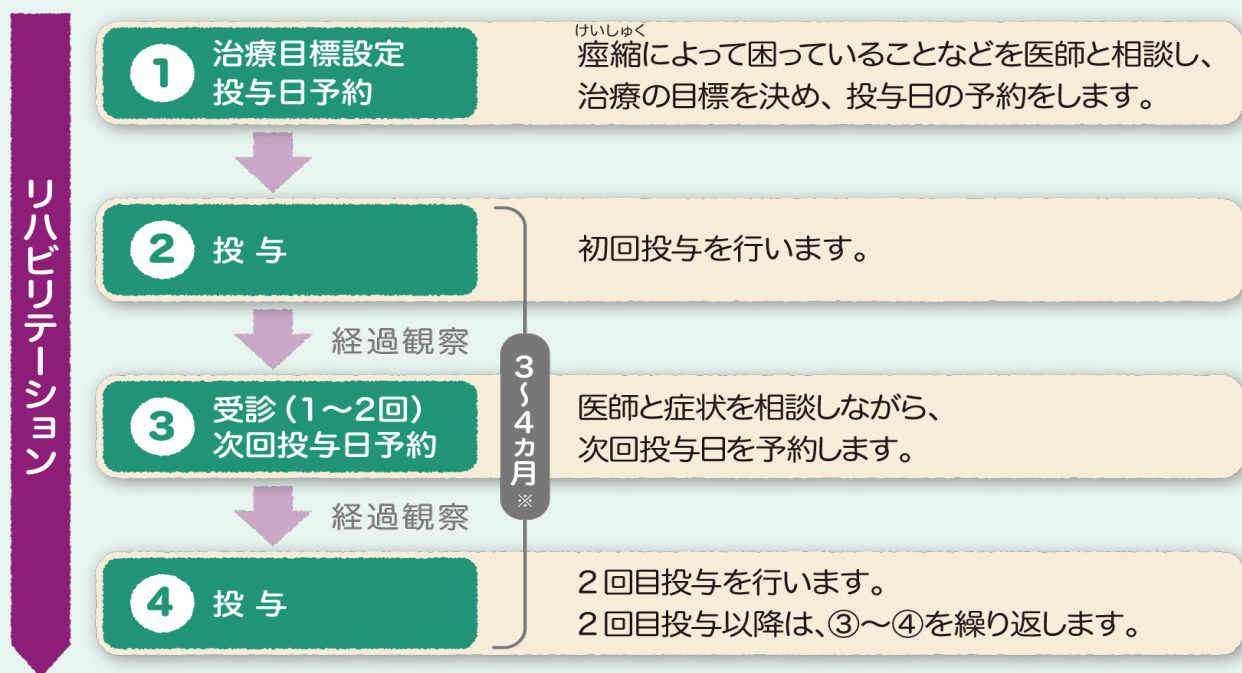
ボツリヌス治療に使われる薬は、A型ボツリヌストキシンと言われています。ボツリヌス菌ではなく、ボツリヌス菌が作り出した物質を薬として筋肉に注射します。筋肉に注射されたボツリヌストキシンは、筋肉にある神経に作用し、筋肉の緊張をゆるめる作用があります。しかし、この効果も3～4ヶ月程度で弱くなっていきます。効果を持続させるためには、繰り返し治療が必要になります。

また、注射した部分の筋肉に作用するので、どの筋肉に、どのくらいの薬を注射するのか、その都度決めることが大切です。また、痙縮によって、どのようなことに、どのくらい困っているかは、1人1人異なり、また、痙縮の状態は時間の経過によっても変化していきます。

当院のボツリヌス治療

県立医療大学付属病院で実施しているボツリヌス治療は、外来で行うコースと入院で行うコースがあります。ここ1年間では、外来、入院を合わせて延べ24名の脳卒中後遺症などによる痙縮の方にボツリヌス治療を行いました。まず外来で診察を受けて頂き、症状を拝見し、予想される効果と副作用などをお話ししながら、治療の目的、どちらのコースで行

● 治療スケジュール例



※次の投与までの期間には個人差があります。

うか、大まかな投与範囲などを相談して決めていきます。外来で行う場合でも、初日には投与できません。まず、このような診察と相談を行い、後日、ボツリヌストキシンを準備した後に投与いたします。入院の場合は、2週間程度のリハビリテーションと組み合わせて行います。入院後に検査を行い、理学療法士や作業療法士といったリハビリテーションのスタッフと、投与部位や、その後のリハビリテーションの方針などを相談してから投与します。いずれの場合でも、投与しただけにせず、リハビリテーションあるいはご自身で投与後の筋肉のストレッチや運動を継続して行うことが大切です。そのことによって、ボツリヌス治療の効果を、より高めることができます。

当院の新しい試み

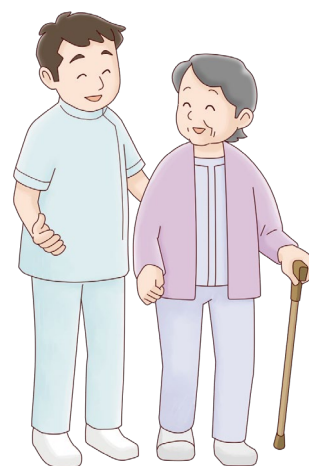
茨城県立医療大学では、以前よりロボットスーツHAL®などの最先端のロボット技術を応用する研究も行ってきました。最近では、



リハビリテーションと並行して利用すること増えてきました。また、腕に装着できるロボットもあり、ボツリヌス治療後のリハビリテーションの中で、こういったロボット技術を利用することも始めています。まだ研究の一環で効果の検証はこれからの課題ですが、より効果的な治療を目指して、最先端の技術も取り入れながら、治療・研究を行っています。

最後に

ボツリヌス治療で麻痺が治ると誤って理解されていることがあります。ボツリヌス治療は麻痺を治す治療ではありません。痙縮（「つっぱり」）に対する治療です。しかし、この「つっぱり」で苦しんでいる方も少なくないと考えています。ボツリヌス治療について正しく理解していただき、多くの方のお役に立てるよう努めていきます。





防災訓練を行いました

付属病院では年2回、防災訓練を行っています。

今年度の1回目となる訓練を10月2日(火)に行いました。

火災が発生したという想定での避難訓練です。

病院の各部門が協力して、病棟に応援に入り、素早く避難を完了することができました。

患者さんの命をお預かりする立場として、こうした訓練を通じて「いざ」というときに備えています。これからも備えをおこたることなく、常に気を引き締めていきたいと思ひます。



訓練開始に向けて準備中

1



2

エアーストレッチャーに
患者さん役の職員を乗せる



3

エアーストレッチャーを
引っ張って避難開始



4

病院外側の非常階段を
下りる



5

避難者の人数を確認中



6

各病棟から正面玄関への
避難完了



水消火器による消火訓練

7



8

訓練終了直後の反省会



茨城県立医療大学付属病院の理念

患者さん本位の、
安全で良質なリハビリテーションを中心とした医療を行い、
患者さんが住み慣れた地域で、
安心して、その人らしく生活できるように支援します。

●基本方針●

- 1 患者さんの尊厳を第一に考え、安全で信頼性の高い医療を行います。
- 2 より良いチーム医療を行い、質の高い医療を提供します。
- 3 先進的なリハビリテーション医療の開発と実践を通して社会に貢献します。
- 4 県内リハビリテーション医療のレベル向上に努めます。
- 5 医療人としての誇りと、豊かな人間性を持った医療専門職の育成に努めます。
- 6 健全な経営に努めます。

医療機関のみなさまへ

◆◆◆ 画像診断サービスのご案内 ◆◆◆

当院では、画像診断サービスを地域の皆様に提供しています。リハビリテーション関連の疾患に限らず、画像診断に関することは広くご相談に応じます。

※他の医療機関の医師からの紹介が原則です。

～検査内容～

- ・一般X線撮影
- ・X線骨密度測定
- ・CT検査
- ・核医学検査
- ・MRI検査
- ・超音波検査

●本サービスを希望される場合は、医療機関からの電話による予約が必要となります。

TEL：029-888-9213

FAX：029-888-9274

詳しくはホームページをご覧ください。

～平成29年度診療実績～

- 延外来患者数 24,257人
(1日平均 99.41人)
- 延入院患者数 37,281人
- 新入院患者数 547人
- 退院患者数 543人
- 平均在院日数 67.41日

当院へのアクセス



●鉄道・バスをご利用の場合

J R常磐線 土浦駅または荒川沖駅で下車

□土浦駅（西口）からバスで約25分

「阿見中央公民館」で、

「県立医療大学入口」下車、徒歩約8分

□荒川沖駅（東口）からバスで約25分

「県立医療大学行」で終点下車、徒歩約3分

●お車をご利用の場合

□常磐自動車道「桜土浦IC」より約25分



茨城県立医療大学付属病院

Ibaraki Prefectural University of Health Sciences Hospital

〒300-0331 茨城県稲敷郡阿見町阿見4733

TEL.029-888-9200(代) ホームページ <http://www.hosp.ipu.ac.jp/>

